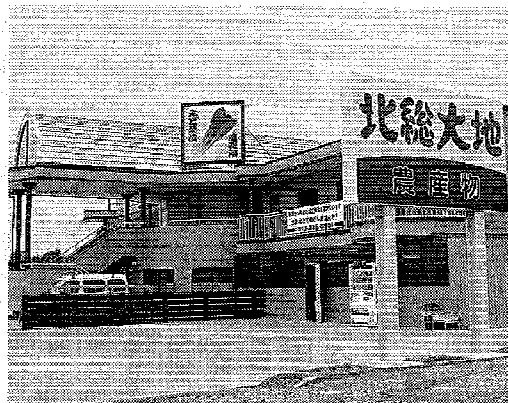


農業体験できる直売所

旦千花が八街市内に開設

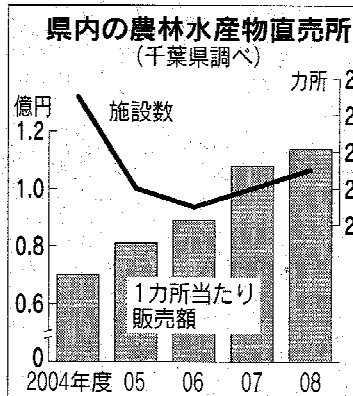
観光客誘致、京葉銀も支援



野菜生産・販売の旦千花(千葉県八街市、大槻暁子社長)は八街市内に農業体験と組み合わせた農産物直売所を開いた。農場を併設し、3月半ばにも野菜の植え付け体験を実施する。京葉銀行が取引先の紹介などで協力した。全国3位の農産物産出額を背景に県内には農産物直売所が多いが、農業体験とセットにして観光振興につなげる試みは珍しい。

13日に開業した「北総大地」の認証や「ちばエコ農産物」の認定などを受けた。商品種類をそろえる。「商品大地」の1階の売り場面「物」の認定などを受けた。商品種類をそろえる。「商品大地」の1階の売り場面「物」の認定などを受けた。商品種類をそろえる。「商品大地」の1階の売り場面「物」の認定などを受けた。

直売所「北総大地」は農業体験などを
目玉にする(千葉県八街市)



約30軒が野菜を供給。北総大地は販売手数料を受け取る。初年度の取扱高目標は1億円。

直売所の近くに敷地面積約2000平方メートルの農場を設ける。露地栽培のジャガイモやサツマイモ、落花生などの植え付け体験を3月中旬にも始める。ビニールハウスなどを設置し、ナスやトマトなどの収穫体験もできるようにする。

植え付け体験は土日祝日と一部は平日も実施する。

県内の直売所 販売額は拡大傾向

千葉県の調査では、2008年度の県内の農林水産物直売所の販売額は計183億円と、前年度に比べ約6%増えた。1カ所当たりの販売額も年々増加傾向にある。

一方、08年度の施設数は217で、ここ数年はほぼ横ばいだ。千葉市や船橋市、松戸市周辺など県内の大都市部を除き、飽和感が出始めている。

直売所の安定経営には「一定規模への拡大やサービス業としての対応をうたう」。

「一定規模への拡大やサービス業としての対応をうたう」。

予定。体験料金などは今後詰める。体験農場は段階的に増やす方針だ。

直売所の敷地内に独自の開発の「落花生みそ」の試験工場を設けたほか、5月には直売所の2階で野菜を使った家庭料理のレストランを開業する。乗用車やバスなど約100台分の駐車場を用意し、観光需要に対応する。

北総大地に商品などを供給する取引先の一部は京葉銀が紹介した。同行が2009年4月に新設したアグリビジネス支援室を通じて、食肉加工・販売のシェフミートチクサ(千葉市)など6社を紹介し、新規取引につなげた。

旦千花は同名の農業生産法人を持ち、小松菜を改良した大振りの「江戸菜」を中心に生産。東京・江戸川に営業拠点を構え、ホテルや外食店などに直接販売している。グループの総売上高は約3億円。